

書くこと①

第3学年

想像したことを関連付けながら書きたいことを決め、物語文を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。

取材したことが構成にいかせていない。

おわり	中	はじめ
<p>した。</p> <p>二人は幸せにくら</p> <p>宝箱を開けると、</p> <p>宝石が入っていた。</p>	<p>で走った。</p> <p>けて宝箱のところま</p> <p>たが、二人は火をよ</p> <p>ゴンが火をふいてき</p> <p>くことにした。ドラ</p> <p>ラゴンのいる道を歩</p> <p>宝島につくと、ド</p>	<p>手に入れた。</p> <p>坪木が宝の地図を</p> <p>山下と歌が得意な</p> <p>ぼうけん好きの</p>

物語の設定と構成の「中」の部分とを関係付けて想像を広げることができていない。

実践の概要

単元名

ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう

『たから島のぼうけん』 光村図書

目標 場面相互の関係に気を付けて、想像したことを物語文に書き表すことができる。

- 内容
- ・物語の設定を考える。
 - ・物語の設定を踏まえて出来事を考える。
 - ・構成を考えて物語文を書く。
 - ・出版記念会を開き、クラスで読み合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- ・モデル学習として、課題解決型のグループワークを行うことで、関係付けて考えを作ることを体験し、自分の物語にいかすことができるようになる。
- ・取材と構成をつなげて考えをつくることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

グループで課題解決型のモデル学習を行う。

活動のねらい▶ 「はじめ」と「中」の関係付け方を学び、自分の考えにいかすことができる。

ここが
ポイント

教師から物語を例示し、物語中の出来事の解決策をグループで考えさせることで、登場人物などの設定と関係付けながら、物語の出来事やその解決策を設定することの必要性に気付かせる。

授業の様子



この登場人物ならではの、出来事や解決策の方が面白いね。

この物語の設定からすると、こんな解決策が考えられるね。

(期待される児童の姿)

自分の物語ではなく、教師が作った物語を題材としてモデル学習をすることで、提示された登場人物や設定を踏まえて、物語における出来事の解決方法を考え合うことができる。「はじめ」と「中」を関係付けることを体験的に学ぶことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

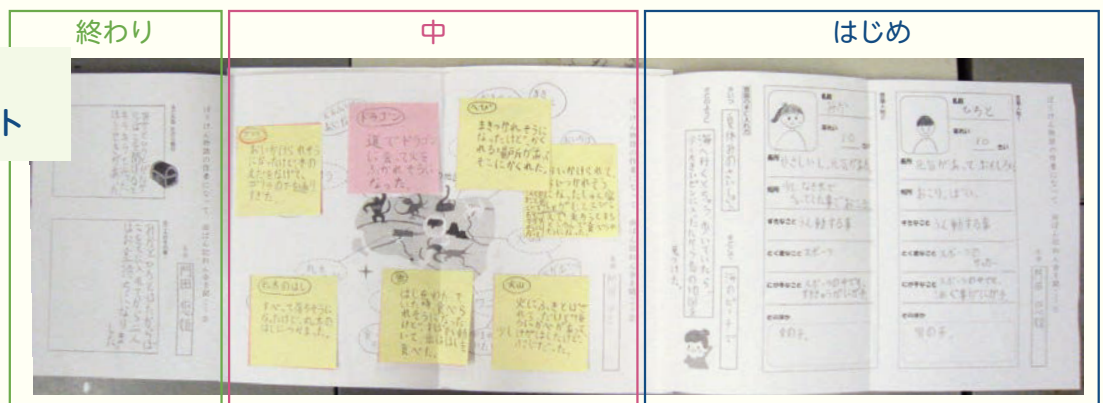
「はじめ」「中」「終わり」に書くことを、それぞれ1枚のワークシートに書き、その3枚のワークシートを1枚につなぎ合わせる活動を行う。

活動のねらい▶ 視覚的に内容のつながりをとらえることで、自分の考えをまとめられる。

ここが
ポイント

「はじめ」や「中」などは、それぞれ別の時間に取材として書かせたワークシートだが、それらを貼り合わせることで構成について注目させることができる。取材と構成を分離させないことが大切である。

活用した ワークシート



(期待される児童の姿)

「はじめ」「中」「終わり」をつなぎ合わせることで、視覚的に内容的なつながりを理解することができる。このワークシートをもとにすることで、スムーズに物語の構成を考えることができる。